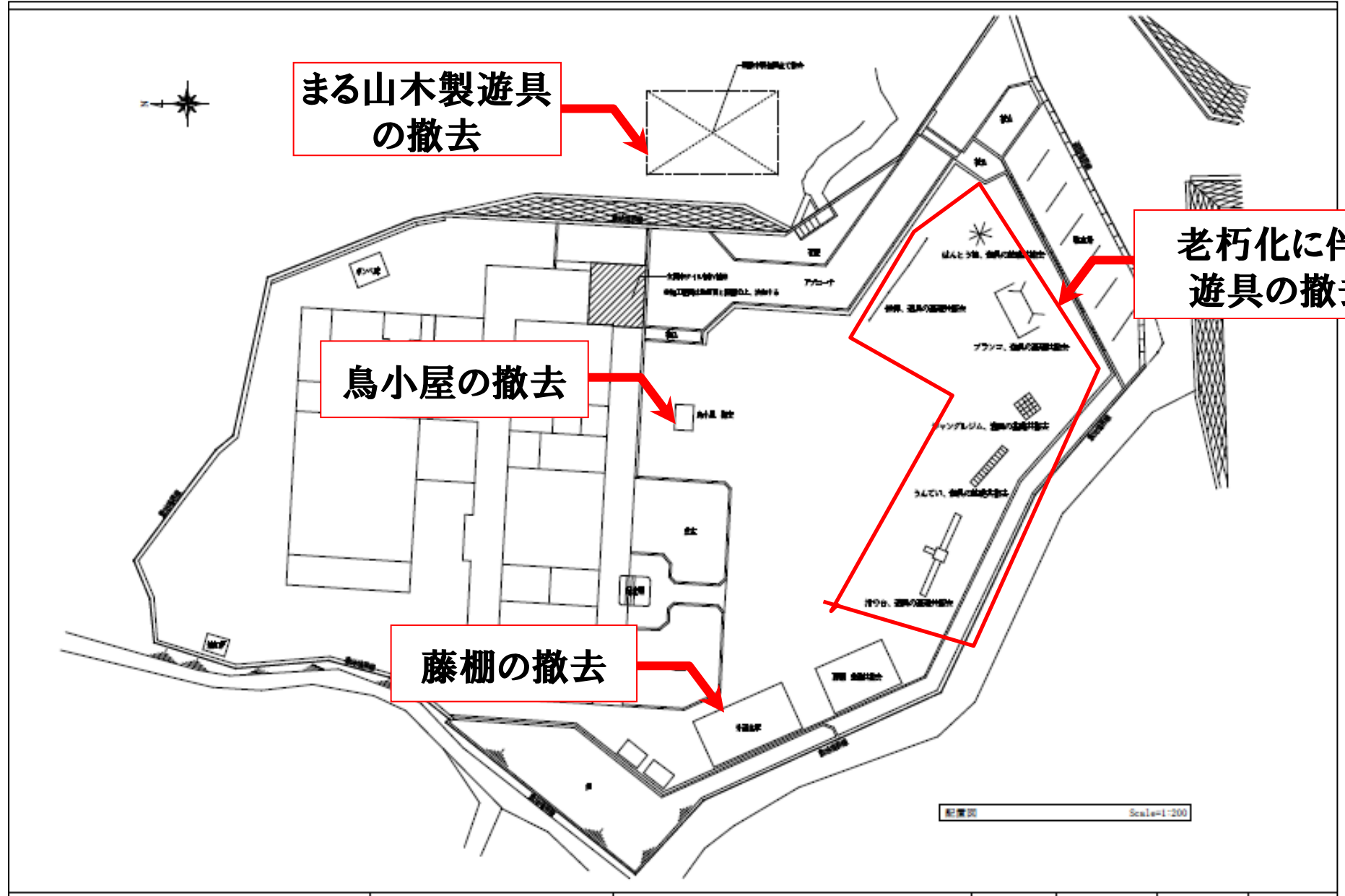


旧福住幼稚園利活用事業 改修工事(敷地)

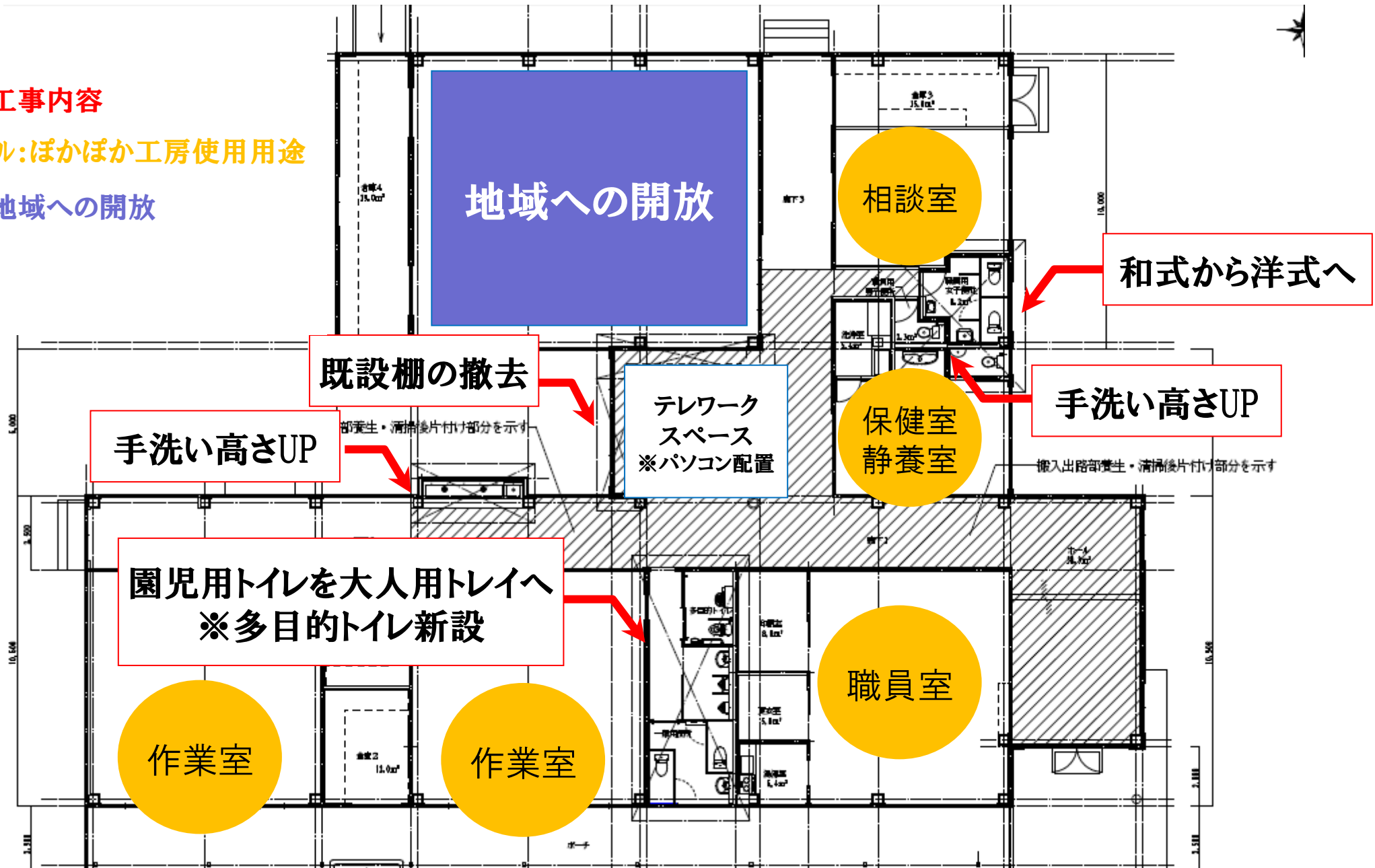


旧福住幼稚園利活用事業 改修工事(建物内)

赤枠:工事内容

黄色マル:ほかほか工房使用用途

青枠:地域への開放



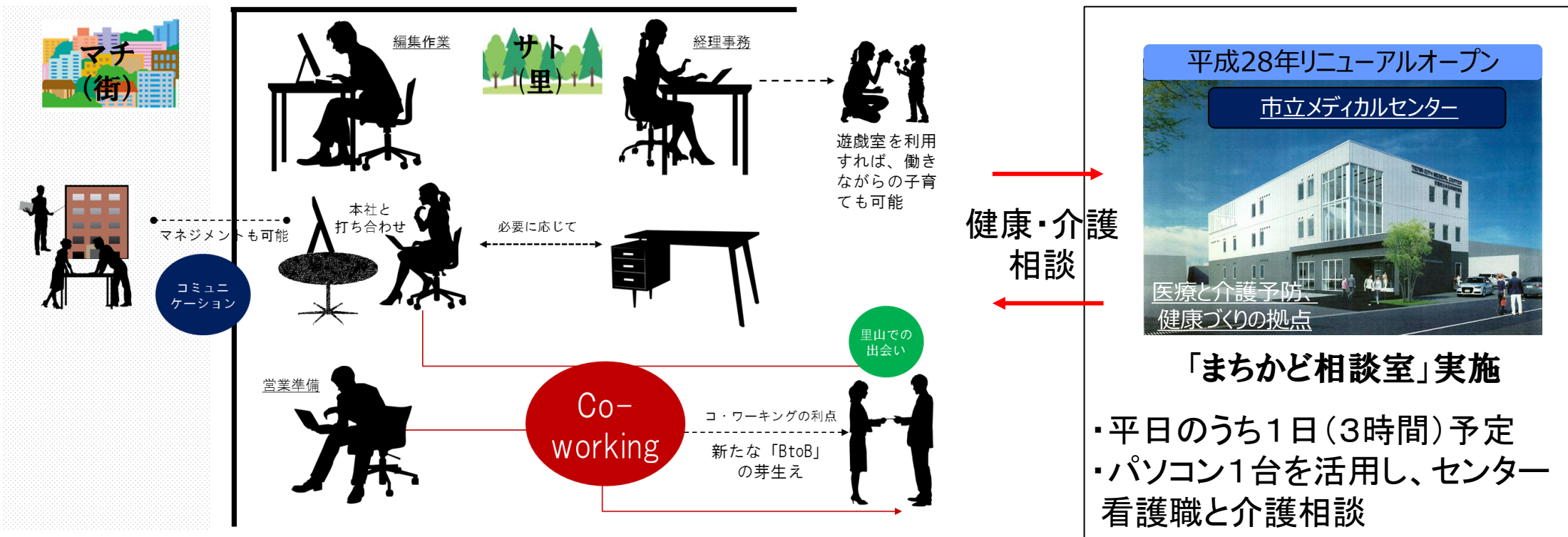
旧福住幼稚園利活用事業 進捗状況

1. 事業開始時期

- 主たる障がい者生活介護支援事業は、平成28年10月より本格実施。
- テレワーク業務については、平成28年4月より実施。

2. テレワーク運営体制

- 多目的スペースを利用した、コ・ワーキング型運営(ノート型パソコン4台)
- 市立メディカルセンター「まちかど相談室」と健康・介護相談ができるよう試行予定。



旧福住幼稚園利活用事業 施設開放運営ルール(案)

○施設の地域開放につき、近隣公共施設(公民館、福祉センター)との役割分担を意識しつつ、市職員による運営体制と異なる環境に配慮して、基本的な開放日を設定する必要がある。

【 平 日 】の施設開放	【 土・日・祝日 】の施設開放
<p>(1)開園時間(9時－16時)</p> <ul style="list-style-type: none">・遊戯室の積極的な開放協力をお願いする。 <p>(2)閉園時間帯(16時以降)の対応</p> <ul style="list-style-type: none">・開園頻度:週2日間(火・水曜日)程度を希望。・空き部屋の利用は、職員配置の都合上、事前に利用申請書を提出。	<ul style="list-style-type: none">・利用頻度:月2日間程度を希望。・空き部屋の利用は、職員配置の都合上、事前に利用申請書を提出。

高原地区ライフスタイル発信事業

1. 事業概要

地方創生に取り組むなかでプロモーション活動を行う自治体も多く、移住・定住先となる選択肢になるには、これまで以上に都市部住民を対象として観光誘客とは異なる切り口をもって積極的なプロモーション・誘致活動が必要となる。

このようななか、高原地区の豊かな自然環境、伝統ある歴史・継承された文化資産、身近な交通アクセスなどの魅力と地域に根ざす人々の日々の暮らしを発信するライフスタイルブックを作成することにより移住後のイメージを喚起させるとともに、同ブックをPR活動ツールとして活用し、都市部等で開催される移住・定住フェア等のイベントに参加するなどのプロモーション活動を行う。

※完成イメージ

ヒト×ヒト
談笑風景

里山スタイルを
表すモノ

暖炉でつなぐ人の輪

空き家カフェ
で地域交流

福住で暮らす
ということ

豊かな自然環境
を魅せる情景

【掲載登場人物(予定)】

- 子育て世代
- 職人(瓦製造、大工、茅葺など)
- 地域活性化団体
- 高原地区出身者
- ・
- ・

奈良市東部山間部を対象とした
「す・とうぶ」を27年度に発行

Take Free

空き家お試し居住推進事業

1. 事業概要 ⇒まちづくり基本構想P12「暮らし続けられるための定住人口増加」に関する取組

○移住・定住の推進に向けた継続性ある取り組みとして、移住先となる地域への住まいを体験できる機会を図る必要がある。

○平成27年度に位置付けた「移住・二地域居住等モニターハウス」(もよの家)を継続し、新規協力宅も加えて、農業体験等を実現させるべく農地(耕作放棄地を含む)と近隣農家による助言・指導を提供し、移住及び二地域居住等の実現に向けて実施する。

○実施回数は、1泊2日を延べ10日間を想定している。

○総合戦略では、「高原地区を対象とした移住促進」として、
平成31年度には年間8世帯(平成26年度は6世帯) を目標としている。

2. 期待効果

地域の受入意識の醸成を図るとともに、地域慣習ルールの説明及び医療・福祉機関や生活利便施設(スーパー・銀行等)の位置・距離情報の提供を行うことで、地域の利用者と地域住民との交流機会の創出や地域行事への参加を促進する。

3. 予算概要

○空き家利活用者への受け入れ協力者や農業指導協力者、観光ガイド等に対する謝礼

○宿泊に伴う保険料(損害保険料)

○利用者が高原地区への溶け込みを促進するための交流会開催する場合の助成

民泊モデル推進事業(ふるさとに泊まろう事業)

1. 事業概要

⇒まちづくり基本構想P12「交流人口増加を目指す暮らし民泊推進」

○移住・定住促進に向けた取組において、移住後に生じる問題として地域に溶け込めないことが見受けられる事例がある。そのため、地域住民による受け入れ体制の醸成を養うことを企図し、知人(天理にゆかりのある人を対象)から他人へと段階的な受け入れ機会を創出するとともに、移住希望者に向けた体験となる機会の創出を図る必要がある。

○高原地区を対象として、在住者の親族・血縁関係者さらにはつながりを活かして親族らの友人等を呼び込むことで域外利用者の誘客を図る民泊事業を行う(今年度は5組程度)。時期は大学等卒業・帰省等の時期に合わせる予定。

○実施回数は、5回(5泊)を想定している。

○総合戦略では、「天理にゆかりのある人を対象とした移住促進」を推進する。

2. 期待効果

○ふるさと意識の醸成によるUターン人口の増加、交流人口の増加及び地域住民による受け入れ体制の醸成を図ることができる。

3. 予算概要

○民泊受け入れ協力者に対する謝礼

○民泊参加者に対する交通費至急

○宿泊に伴う保険料(損害保険料)

○布団リース料

国土交通省「ゆめづくり まちづくり賞」への応募／結果



○関西における地域づくり・まちづくりの取り組みを募集される。

・審査機関・快適都市実現委員会メンバーに**建築家・安藤忠雄氏、女優・真野響子氏**や大学教授らが名を連ねる。

○福住未来クラブ・小野原会長及び浦井前会長の協力のもと、平成27年11月に応募。

○平成27年12月 国土交通省 近畿地方整備局 職員が福住訪問し、浦井前会長の案内のもと、復元元氷室を見学された。

○平成28年2月 結果発表があり残念ながら受賞ならず。

しかし、2次審査へ進みことができ、**安藤忠雄氏ら審査委員から**

『氷室の復元や氷室に納めた氷を取り出す「福住氷まつり」を子ども参加型で開催する手法に創意・工夫が見られる点や、こども園・小学校・中学校と協働することで発展性が見られる点等において評価』

があり、「福住地域」、「福住未来クラブ」や「氷まつり」の活動をPRすることができた。

○今後も各賞へ応募するなどにより、多様な形で情報発信をしていきたい。